

高槻 まちかど遺産 H25-19



「五社の水」

塚原北方で安威川から取水し、茨木市との境を流れる用水路を「五社水路」と呼びます。水路が開かれた時期は、古墳時代まで遡るとも考えられています。

水路は途中で枝分かれし、その一つは筒井池へと流れ込み、周辺の田畑を潤しました。

阪急富田駅の西側から筒井池に流れる水路(下登岡崎水路)はその後継で、地元では「五社の水」と呼ばれ親しまれています。



江戸時代の五社水路と富田 『高槻市史』より

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

五社の水

塚原北方で安威川から取水し、茨木市との境を流れる用水路を「五社水路（ごしゃすいろ）」と呼びます。

水路が開かれた時期は、古墳時代まで遡るとも考えられています。

水路は途中で枝分かれし、その一つは筒井池へと流れ込み、周辺の田畑を潤しました。

阪急富田駅の西側から筒井池に流れる水路（下登岡崎水路（しものぼりおかざきすいろ））はその後継で、地元では「五社の水」と呼ばれ親しまれています。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

- ※01 富田台地は古くから安威川の水を引いて作物を作っていました。その水路を「五社水路」と呼び、筒井池にも流れ込み南の田を潤していました。北の田や畑は、御社野（五社野）と呼ばれ良質の米を産し、酒米として富田の酒造を支えていました。
- ※02 筒井池に入る水路は、冬場にも流す溝です。
- ※03 大溝は、昭和台に流れる（屯田）田植えに使用する大事な水路です。新池（富田小学校）と小山池（現在一部残る南小山池）に入る。